地域と共生するFFG

福岡県 行橋市

YUKUHASHI CITY

活力に満ちた暮らしやすい都市

福岡県の北東部に位置する行橋市は、市のほぼ全域が平野部で暮らしやすい環境となっています。

“彫刻によるまちづくり”を目指して2年ごとに「ゆくはし国際公募彫刻展～ゆくはしビエンナーレ～」を開催し、芸術文化活動に積極的に取り組んでいます。また、周防灘の海岸線を走る「ゆくはしシーサイドハーフマラソン」や、ビーチスポーツも人気があります。

２０２０年春には「行橋市図書館等複合施設」が誕生するなど、活力に満ちた都市として着実に発展を続ける行橋市についてご案内します。

寄稿：行橋市

「漁港の夕暮れ」（多久島英行　撮影）
豊かな海の幸をもたらす蓑島漁港。左に見える建物は行橋市魚市場。

行橋インターチェンジ上空から見た行橋市

人が集まる、まちが育つ

行橋市は福岡県の北東部に位置し、東西約14㎞、南北約9㎞、面積70・06㎢の広さで、東は周防灘に面し、北西端はカルスト台地で知られている平尾台に続いています。農業、漁業、自動車産業、電気工業等が盛んで商業施設も多く、人口は毎年増加して平成30年8月末では73,320人となり、京築地域の中核都市として発展を続けています。

平成28年に東九州自動車道が全線開通し、行橋市と九州各都市の距離は格段に近くなりました。市内には行橋インターチェンジと今川スマートインターチェンジが設置され、福岡市へは約1時間、別府市へも約1時間で訪れることができます。また北九州空港まで車で約20分、空港から東京までは約90分で到着することができ、旅行や仕事など行橋市を基点としてアクティブに活動することができます。さらに市の中心部にある日豊本線JR行橋駅は特急の停車駅でもあり、通勤、通学を中心に1日平均約13,000人の乗降者数を数え、毎日大勢の利用客が行き交っています。

駅前広場を会場に様々なイベントも開催され、市外からも多くのお客さんが訪れるようになりました。行橋市に人は集まりつつあります。

※行橋駅周辺で開催されるイベントには、夏の"駅フェス"、"行橋名物を販売する"ゆくはし駅前マルシェ"、冬の"イルミネーション"、行橋名物「豊前海一粒かき」を楽しむ"かきフェスタ"、市内飲食店を美味しいお酒とともに楽しむ"はしご酒大会"などがあります。いずれも市民が中心となって開催され、行橋市には活気あるイベント、活躍する人がどんどん育っています。

駅周辺に建ち並ぶマンション

にぎわう"駅フェス"

駅構内の行橋市観光物産情報コーナー「ゆくはしマルシェ」では地域の特産品を販売

生まれ変わるゆくはし

2020年春、行橋市の中心部に新しい図書館が誕生します。行橋駅東側の商店街に接して新しく建設される「行橋市図書館等複合施設」は、市の中心部という環境を活かして、年代や性別を問わず多くの人達が何度でも訪れたい空間づくりを目指しています。

敷地面積は約3,200㎡、建物は4階建てで延べ床面積は約5,000㎡。中核施設である図書館の一般開架には約15万冊、児童開架には約5万冊の図書を収蔵予定です。さらにグループ学習や会議室等の多彩な用途に使うことができるスタジオ、多目的ホール(客席200席)、コワーキングエリアやブックショップを含む交流スペースが充実し、ほかに託児スペース、ボーネルンド社製遊具を置いたプレイルーム等も設けられ、施設内では飲食もできるようになります。建物の前面には大正時代に建設された歴史ある建造物「旧百三十銀行行橋支店(行橋赤レンガ館)」、背面には周防灘に注ぐ長峡川が流れ、まちなかにありながら学びや遊び、憩いの時間をゆったりと過ごすことができる、そんな施設が作られようとしています。

CONCEPT

～人口減少に備えた「持続可能な地方都市」をめざして～

1. 子どもから大人・高齢者が集い、学び憩える交流空間づくり
2. 地域活性化のための人の交流・往来を盛んにする施設づくり

3F 一般開架

2F 児童開架

施設断面イメージ図

行橋市図書館等複合施設全体イメージ図

ゆくはしビエンナーレ第1回大賞作品「思考するヒポクラテス」（奥村信之 作）

『行橋まちなかオブジェ・プロジェクト』

海外の彫刻家達が行橋市内に滞在して一つの石から一つずつ作品を制作。完成した作品は商店街の店舗前などに設置され、まちを訪れる人は気軽に芸術に触れることができます。

1.まちなかオブジェ「日本海」（リュー・ヤン 作）
2.まちなかオブジェ「Fragment of Something」（ギョルギ・ミンチェフ 作）

アートを楽しむ
彫刻とふれあう

多くの人が芸術に接し、また世界にむけて"行橋市"を「文化芸術創造都市」として発信するために、2年ごとに「ゆくはし国際公募彫刻展～ゆくはしビエンナーレ～」を開催しています。世界中から彫刻作品を公募し、大賞受賞者1名に賞金1，000万円が贈られます。1回目の大賞作品は新しく建設される「行橋市図書館等複合施設」のロビーに設置される予定で、現在は行橋市複合文化施設コスメイト行橋に仮設置されています。今年夏に決定した2回目の大賞作品「卑弥呼」は等身大のブロンズ像に仕上げられ、平成31年3月にみなさんに披露される予定です。

この彫刻展の関連イベントとして『行橋まちなかオブジェ・プロジェクト』や『粘土でオブジェ作り』が開催され、アートによるまちづくりが進められています。

まちなかオブジェ「天地無用」（レオナルド・クンボ 作）

『粘土でオブジェ作り』

子ども達が夏休みに、行橋の土を使った粘土でオブジェを作ります。今年は"動物の森をつくろう"をテーマにユニークな作品を仕上げ、自由に造形することの楽しさを体験しました。

行橋市増田美術館は、平成17年に私立美術館として開館し平成29年4月からは市立美術館として行橋市が運営しています。収蔵品は近代日本画、書、陶磁器を中心に約300点を数えます。季節に合わせて入れ替える常設展示では、横山大観や川合玉堂、上村松園、北大路魯山人などの貴重な作品の数々が気軽にゆったりとお楽しみいただけます。

ART

行橋市増田美術館

開館時間　10:00～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日　月曜日（月曜日が祝日の時は翌日）、年末年始、盆
入 館 料　一般500円、高校生・大学生300円、中学生以下無料
T E L　0930-23-1824

日本画の作品に見入る来館者

全国大会への出場権を目指して県内の高校生約150チームが参加

海沿いを走るハーフマラソンのランナー

海でスポーツ シーサイドを駆ける

平成31年1月27日に第4回目となる「ゆくはしシーサイドハーフマラソン」が開催されます。このハーフマラソンは日本陸上競技連盟公認コースとして第1回目から多くのランナーに注目されており、地元の京築、北九州地方を中心に全国から約2，500人が参加して周防灘の澄み渡った海岸線を疾走します。ゴール後には大人気の行橋の冬の味覚「かき汁」がふるまわれ、走った後の身体の疲れを癒します。

また、長井浜海水浴場は遠浅で美しい砂浜が広がり、近年ビーチスポーツの聖地として様々なイベントで盛り上がっています。夏の「ビーチバレーボールフェスティバル」では高校生大会やビーチバレーボール愛好者による長井浜カップで熱戦が繰り広げられ、同時開催の「シーサイドフェスティバル」では熱いステージや地元出店の肉料理に来場者も大満足。毎年9月に長井浜を拠点に活動するビーチサッカーチーム「ドルソーレ北九州」により開催される「ビーチサッカーフェスティバル」は、エキシビションマッチや子ども達のビーチサッカー教室など家族で楽しめるイベントとなっています。

現在、この海水浴場では更衣室やシャワー室、駐車場を備えた公園が建設中で、これからますます行橋の海が楽しくなりそうです。

子ども達が元気に砂浜を走り回るビーチサッカー教室

SPORT

潮風の中で音楽を楽しむシーサイドフェスティバル

朝日を浴びながらビーチヨガ

栄養豊富な海の恵み

蓑島産『豊前海一粒かき』

北九州市から大分県の周防灘豊前海沿岸で養殖されている牡蠣のブランド『豊前海一粒かき』。

行橋市蓑島の海には、英彦山生まれの植物性プランクトンが注ぎ込み、豊かな海の恵みの中で牡蠣は成長します。殻いっぱいに詰まった身はエグ味がなく濃厚な味が特徴で、ぷりぷりとした食感は食べ応えがあります。海から引き上げられた牡蠣は漁師が一粒一粒丁寧に表面の汚れを落としてきれいに磨きあげ、殻付きで新鮮な牡蠣として全国へ発送。手間と愛情をかけた逸品として多くのファンに愛されています。

また、漁師直営のかき小屋は、毎年11月中旬にオープンし、焼き牡蠣のほかに牡蠣めしや牡蠣フライ、地元産のエビや貝など海のものを味わうことができます。市外から毎年訪れるリピーターの方も多く、シーズンには多くの牡蠣好きが遠方からも訪れます。

1月上旬に行橋駅前で開催される“かきフェスタinゆくはし”。焼き牡蠣はもちろん、ペペロンチーノ、アヒージョなど様々な牡蠣料理をお酒と一緒に楽しむ人気のイベントです。

地元の小学生も毎年牡蠣小屋での作業（牡蠣打ち、種付け）を体験。牡蠣打ちでは、初めは慣れない手つきですが、教わりながら専用の研磨機を使い殻についたフジツボなどを丁寧に削りとっていきます。

行橋市の新しい逸品

『鱧（ハモ）』

ハモ（鱧）といえば京料理に使用される高級食材として知られていますが、行橋市の漁場でも夏から秋にかけて多く水揚げされています。ハモは、見た目どおりウナギやアナゴと同じ仲間に属し、全長は最大2mほどに達するものもあり、顔は獰猛でするどい歯が並んでいます。しかし、その身は上品で味わい深く、湯引き、天ぷら、鍋物などで味わうことができます。その際に不可欠なのがハモ特有の小骨を皮を切らないように細かく切る「骨切り」という調理方法です。行橋市では「骨切り」をしたハモの商品化も進めています。これからの行橋市産「ハモ」をぜひご賞味ください。

1.鮮度が命、行橋市魚市場直送のハモ
2.骨切りされたハモの身

美容と健康に注目 いちじく

行橋市北東部に広がる新田原地区は、古くから桃、梨、ぶどう、いちじくの果樹栽培が盛んで、フルーツの里として知られています。特にいちじくは全国有数の生産量を誇る福岡県の中でも行橋市が上位にあり、行橋市の特産品の一つとなっています。栽培されている品種は『蓬莱柿』と『とよみつひめ』。昔ながらの『蓬莱柿』の栽培面積が大半を占め、皮が薄く適度な甘みとほのかな酸味があり上品な味わいが特徴です。いちじくは食物繊維やカルシウムなどを豊富に含むことから、美味しいだけではなく、美容と健康にも効果がある嬉しい要素がギュッとつまった注目のフルーツです。

FOOD

1.いちじくジャムを使った人気のお土産「いちじく想花(そうか)」　2.濃厚な甘酸っぱさが懐かしい 行橋美夜古ジェラート「蓬莱いちじく」　3.今年新発売、いろいろな料理に活躍「いちじく焼きそばソース」

福岡銀行から

行橋市と地域連携協定締結

行橋市と福岡銀行及びふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）は、平成27年7月にそれぞれの持つ資源を有効活用し、連携協力して、行橋市の地方創生、経済振興に寄与することを目的に、連携協定書を締結しました。

これまで、連携協定書に基づく事業として、食の商談会や福岡銀行本店広場での観光・物産フェアなどを開催し、市内事業者様の販路拡大や観光振興に向けた取組みを行っております。

平成29年2月、福岡銀行では、行橋市の定住促進を目的に、市内で住宅の建築・購入・リフォームをされる方を対象とした行橋市限定住宅ローンの取扱を開始しております。

また、平成29年12月、FFG設立10周年記念として、「FFGサッカーフェスタin行橋市」を市内の小学1～2年生を対象に、行橋市とFFGが共催するなど、様々な分野にて連携を行っているところです。

今後も福岡銀行及びFFGでは、行橋市の地域活性化に向けて、全力で取り組んで参ります。

「FFGサッカーフェスタin行橋市」の様子

平成27年7月の連携協定締結式　左から田中純市長、西妻取締役常務執行役員（当時）

平成27年11月の「食の祭典フェアinふくぎん本店広場」で挨拶する田中純市長